

事業実績報告書

(※市ホームページに掲載予定ですので、できる限りわかりやすく記載してください。)

団体名 記憶の中の「生」再現プロジェクト

1 事業名	宝塚「生」の祈り2025
2 事業の内容（実施日、場所、回数、内容、参加者数などを含めて具体的に記入してください。）	実施日：第1回 令和6年12月7日（土） 第2回 令和6年12月8日（日） 第3回 令和7年1月16日（木） 内容： <第1回、2回>宝塚大橋南詰西側金属製「生」モニュメント前および武庫川中洲 『みんなで積もう！「生」の石積み』 中洲の「生」の石積み作業をしました。 「生」は、阪神・淡路大震災からの再生を願う石積みオブジェです。震災から30年を迎えるにあたり、震災を知らない若年層を含めて、みんなで力をあわせて14代目のとなる「生」を制作しました。両日で親子、学生など延べ200人が参加しました。 <第3回>宝塚大橋南詰西側金属製「生」モニュメント前および武庫川中洲 『宝塚「生」の祈り2025』 阪神・淡路大震災から30年、震災犠牲者追悼のセレモニーを開催しました。中洲の「生」、および金属製「生」モニュメントのライトアップ、震災発生12時間前黙とう、クロマチックハーモニカ奏者の演奏、宝塚歌劇団0Gによる独唱、トランペット奏者による演奏が実施されました。 参加者それぞれが命の大切さをかみしめる一日となりました。約330人の市民が参加しました。

3 市制 70 周年をお祝いした内容

市制 70 周年のお祝いとして、本事業をとおして阪神・淡路大震災からの復興への 30 年を歩んできた宝塚市にエールを贈ることとなった。今回のロゴマークにある武庫川を飛翔する不死鳥のように命の大切さを願う再生のメッセージをメディアをとおして全世界へ発信することができた。震災を知らない世代や未来を担う子どもたちが命の大切さをかみしめ、どんな困難にも立ち向かう心を育てることは、今後の宝塚市の宝となり、市制 80 周年への架け橋となることを確信する。

4 事業の効果・成果

震災の記憶を風化させてはいけないという思いからか親子（家族）で「生」の石積みに参加する市民が増えた。また、今回は多くの海外からの留学生が「生」の石積みに参加した。震災を知らない世代が増えるなか、震災の記憶を継承し、命の大切さをかみしめ、思いを共有する場となった。「生」の石積みをとおして、世代を超えて人々がゆるやかにつながり、それぞれがそれぞれの命と向き合い、それぞれの思いを共有する。市民相互の心の絆がより強固なものとなった。

5 実施した安全対策

- ・万が一の怪我などに備えて参加者を対象としたボランティア行事保険に加入
- ・多くの学生ボランティアを動員して子どもたちが怪我をしないように見守る。
- ・屋外イベントなので気象情報を入念に把握。
- ・セレモニー開催の混雑時はプロの警備員導入。